



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.26
六甲山の景観計画を
考える/中瀬 勲
2005年5月発行

第26回テーマ:六甲山の

景観計画を考える

講演内容

日本庭園の美
六甲山は世界の都市林
六甲山の景観計画を考える



講師: ^{なかぜ}中瀬 ^{いさお}勲さん

プロフィール

1948年大阪府生まれ。
大阪府立大学農学部卒業、
同大学院農学研究科修士
課程修了。カリフォルニア
大学客員研究員等を経て
兵庫県立大学自然・環境科
学研究所教授、兵庫県立人
と自然の博物館副館長。

実施日:平成17年5月21日(土)
午後1時 ~ 3時40分
場 所:六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



改修中の自然保護センター

さわやかに3年目の踏み出し

六甲山は初夏を思わせるさわやかなお天気でした。自然保護センターは屋根や外壁を改修中で、六甲山ガイドハウスの完成に続いて記念碑台の様子が変わりつつあります。

午前中は当会の総会を開催し、3年目の事業活動を本格的に稼働しました。午後からは、来賓でお越しいただいた県立人と自然の博物館副館長の中瀬勲さんに記念講演をお願いしました。



あずまやの前でテーブルを設けて、
のんびりとお弁当を楽しむ皆さん

「体当たりでの勉強」を重視

中瀬さんは『みどりのコミュニティデザイン』他、多くの著書がある景観計画分野の第一人者です。専門家として行政からの委嘱やNPO支援でもご活躍です。

今回は、日本庭園の美意識や外国の景観事例等を前段にして、六甲山の景観計画のあり方についてお話いただきました。中瀬さんは「私の教育技法は体当たりでの勉強だ」と、実践の大切さを強調されていました。気さくなお人柄にはとても親近感がわき、皆で楽しくお話を聴きました。

景観計画はみんなで作るもの

質疑応答も活発に行われました。中瀬さんは、これまで景観に関わる計画は行政がつくっていたが、これからは参画と協働の緑づくりが大切で、一般市民がビジョンや運営を考える時期に来ていると話されました。六甲山はみんながつかう山、みんなで提案をしようと投げかけられました。

考える方向がわかってきた

今回のお話で自然との共生や公園のバリアフリー化など、海外の景観づくりの先端事例も知りました。これからの六甲山の景観計画を考えるヒントを得たように思います。今後の市民参画について大いに励ましていただきました。

詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 福永 一登さん

中瀬先生のお話をいろいろと聞かせていただいて、今後の六甲山の姿がいかにあるべきかを自分の中でも考えるきっかけになったと思います。

特に日本庭園やドイツでのピオトープの取り組み方や、小さいときからの環境教育の徹底などの話を聞いたときには、本当になるほどなぁと思うことしきりでした。これからも六甲山の景観をよくするために自分も何らかの形で関わりたいなと思います。



主催:六甲山自然保護センターを活用する会
協力:兵庫県立人と自然の博物館
後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金) (財)ひょうご環境創造協会